



知事が行く!
突撃取材! Part2
～三重のひと～

第14回

～サミット効果を生かせ～

手もみで伊勢茶を 世界に発信!

インタビュー詳細版

(お話をいただいた方)

三重県手もみ茶技術伝承保存会

会長

なかもり やすし
中森 慰さん

(聞き手)

三重県知事

鈴木 英敬



なかもり やすし
中森 慰さん

知事: 昨年の伊勢志摩サミットで手もみ茶を国内外に紹介していただきましたが、中森さんが伝えていきたい手もみ茶の魅力を教えてください。

中森: 私がいつも話しているのは、一番心のこもったお茶だということです。

知事: 一番心のこもったお茶ですか。

中森: 手もみ茶を覚えることで機械も使いこなせるようになります。自分の手でもんで、お茶をつくることで、心のこもったお茶づくりが何かということが分かってきます。若い子たちには、いつも言っています。人によってできあがりは違ってきますが、みんなで同じ仕上がりをめざしていきたいと考えています。

知事: なるほど。丁寧に手間暇をかけて手の感覚を感じながらもんでいく。そこに心がこもるとのことですね。では、味わう魅力としてはいかがですか。

中森: 味は作る原料で決まってくるのですが、僕がいつも言うのは、その原料が10であれば10のお茶は作れますが、ちょっと怠けると2にも1にもなってしまいます。5の原料では10のお茶は作れませんが、5のお茶を作ることが、一番のお茶に対するお返しだと思っています。

知事: いい話ですね。

中森: 若い子らに言っているのが、ちょっと怠けたら10の原料でも2や1の製品になってしまう。原料の良さを



なかもり まさる
息子の中森 大さんが手もみを実演

引き出したお茶を作ること。それが心のこもったお茶なんだと思います。

知事：なるほど。素晴らしいですね。

2つ目の質問です。日本茶は海外からも注目されていますが、今後の可能性について、どのようにお考えでしょうか。

中森：今やグローバル化の時代で、海外にも売り込んでいくのは時代の流れだと思います。でも、私はグローバル化の前にボーダーレス化だと考えています。

知事：ボーダーレス化ですか。

中森：国内の地域間でいくら競争しても、広く世界へPRできません。例えば、三重県のお茶なら伊勢茶として売り出すことが大事です。伊勢茶という名前でなく、まだ県内各地の産地名で売っていますが、個々でやっているとはいけません。みんなが一つになって前へ進んでいくことが大事です。僕は、手もみ茶でユネスコ無形文化遺産への登録をめざそうと、みんなに話をしていますが、そのためには日本の緑茶全体で一つにならなければいけない。それができて世界に進出していけると 생각합니다。

知事：なるほど。グローバルの前に、ボーダーレスですね。

中森：ボーダーレスということクリアできなければ、グローバルにはいけないですね。

知事：確かに、牛肉も、神戸や近江や松阪といわれても海外では分かりませんから、日本の和牛としてもしっかりPRしていくべきですね。この前、ユネスコ無形文化遺産登録された山・^{ほこ}銚・屋台も、地域がそれぞれでPRするのではなく、三重県を含めて18府県33件が一緒になったことで成功しました。

中森：山・銚・屋台のように日本全体で一緒にやっていくという気持ちが大切です。狭い視野で見ないで、広い心で見て世界に向かっていければいいなと思っています。

知事：おっしゃるとおりですね。

では3つ目の質問です。保存会には若い担い手さんもいらっしゃいますが、今後、皆さんとチャレンジしていきたいことはありますか。

中森：保存会には20代の若い会員が多くいます。私は会長の役職を預かっていますが、自分だけではなく会全



手もみ茶を水出しとお湯出しでいただきました。



4時間半にわたって手もみを行い、手から茶葉が滑り出し始めたら完成だそうです。



完成した茶葉は、針のように細長く美しい仕上がります。

体で活動をしていきたいと考えています。^{かたてはぞろえも}“片手葉揃揉み”の技術を守ってだけでなく、手もみ茶で新しい商品を作りたいなと思っています。

知事：いいですね。

中森：伊勢茶の手もみをボトリングにして商品化したいと考えています。手もみ茶を志す仲間と一緒に取り組みたいと考えています。

知事：ボトリングですか。新商品の話、いいですね。

中森：フードイノベーションとして、官民学で新商品として開発していけるチャンスはあると思います。僕は若い人にいつも言っているのですが、行政が何かをしてくれるのを待っていたらいかんと。こちらが動けば行政は後からついてくると。

知事：そのとおりですね。

中森：サミット効果も同じだと思います。行政がサミット効果を出してくれるのを待っているのではなく、我々がサミットで得た知名度などを利用すれば十分に効果が出てくると考えています。

知事：そうですね。チャンスは自分たちでつかみ取るという気持ちが第一歩ですからね。我々も2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、三重のお茶を使った新商品を考えていかなければと考えています。手もみ茶のボトリング、いいですね。

中森：お茶は急須で入れて飲むというイメージを変えて、ボトルで楽しむのもいいですね。ボトルは単価が高くなりますが、1人では高くても、10人、15人で分けてみるとか、どういう機会にどこへ提供していくかなど、みんなで知恵を絞っていかなければいけないと思います。

知事：とても前向きですね。おいしいお茶をいただいて、中森さんの気持ちをよく理解できました。中森さんのチャンスをつかんでいく気持ちにも共感しました。これからもがんばりましょう。ありがとうございます。

中森：これからもよろしくお願いします。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570三重県津市広明町13

☎ 059・224・2788 FAX 059・224・2032

E-mail koho@pref.mie.jp